

井川 県民の森

いろんなモミジを見てみよう



アサノハカエデ、イタヤカエデ、ウリハダカエデ、
オオイタヤメイゲツ、コミネカエデ。

県民の森では様々な種類のカエデ(もみじ)を見ることができます。
紅葉の時期に赤や黄色に色とりどりに色づきます。
ところで、モミジとカエデって、どう違うかご存じですか？

ブナ (樺)

日本の自然林を代表するブナ科ブナ属の落葉高木です。ミズナラと同様、温帯域でもやや温度の低い冷温帯に分布します。富士山でいえば標高 1000m~1600mあたりの亜高山帯がブナ帯となりますが、ここ県民の森では、ブナの木広場にいくつもの巨木があるほか、県民の森センターから井川峠に向かう稜線沿いでも大きな木が見られます。近年では、天然のブナは大半が伐採されてスギ・ヒノキの人工林に代わり、ブナ林はわずかしか残っていません。環境問題が注目を集めている今、ブナは、自然の森を守り育てる活動の象徴的な存在ともいえます。

樺 ブナ科 Fagaceae
FAGUS CRENATA

ブナ

温帯林を代表する落葉高木。春の新芽、秋の紅葉ともに美しい。種子はソバの形、軟毛のいがに包まれている。

白樺 カバノキ科 Betulaceae

シラカンバ *BETULA PLATYPHYLLA* var. *JAPONICA*

中部地方より北に生える落葉高木。日当たりを好んで林をつくり、幹は白くて美しい。樺の名はアイヌ語。

シラカンバ (白樺)

カバノキ科の落葉高木シラカンバは、温帯域でもやや気温の低い地域、本州の中部地方から東、北海道や樺太、中国・東シベリアにかけて分布します。本州では主に標高 1500m以上の高地に群生することが多く、樹皮が白くて目立つため、高原のシンボルとして親しまれています。ここ県民の森でも、林道に沿って駐車場の周辺などで多く見られます。いっけん花とは思えないような網状の花穂は前年から伸びはじめ、4月から5月の新芽の時期と同時に下に垂れてほころびます。

オオイタヤメイゲツ (大板屋名月)

本州の宮城県以南から四国にかけて分布するカエデ科の落葉高木で、秋には黄色や赤に黄葉します。ここ県民の森では、カエデの広場やブナの木広場を中心に、県民の森センターから井川峠に向かう稜線沿いにも数多く見られます。カエデ類には様々な品種がありますが、〇〇モミジ、〇〇カエデ、という名前の多いカエデ類の中で、「大板屋名月」とは風流な名前です。こんな風流な名前は、園芸的に作り出された品種ではないかと思われがちですが、これが立派な自然の品種です。葉っぱが大きくて、裂片は 11 枚程度に分かれるのが特徴です。「大板屋名月」の名前の由来は、「板屋」というのは葉がよく茂って板ぶきの屋根のように雨が漏らないこと、「名月」とは、丸い葉の形を満月にたとえたものとされます。

大板屋名月 カエデ科 Aceraceae

オオイタヤメイゲツ *ACER SHIRASAWANUM*

本州の宮城県より南と四国に分布する落葉高木。葉は大きく 9~11 裂する。春の新緑と秋の黄葉が美しい。

ウリハダカエデ (瓜膚楓)

ウリハダカエデは本州から九州に分布するカエデ科の落葉高木で、秋には赤く紅葉します。若い樹木の樹皮が緑色で、マクワウリに似た模様があることからこの名がつけられました。雌雄別株で、5月に 10 数個の花を運んだ花序をつけます。葉はカエデの仲間にしては大きく、基本は 3 裂となります。樹皮は成長するにつれて緑色から淡褐色に変わり、やがてコルク質が発達して淡灰褐色となってきます。なお、よく似た名前で、同じカエデ科のウリカエデがありますので、注意が必要です。こちらも樹皮が緑色でウリのような縦縞模様があることから名づけられたものですが、一番の違いは、ウリハダカエデは葉が大きくて浅く 3 裂するのに対し、ウリカエデは葉が小さく、ほとんど切れ込みがありません。

瓜膚楓 カエデ科 Aceraceae

ウリハダカエデ *ACER RUFINERVE*

本州~九州の山に一般的な落葉高木。雌雄別株。緑色の幹につく黒斑は瓜縞模様。花は 5 月頃、紅葉が美しい。

コミネカエデ (小峰楓)

コミネカエデは、本州から九州に分布するカエデ科の落葉小高木で、秋には真っ赤に紅葉します。ここ県民の森でも、もっともみごとな紅葉をみせてくれます。葉はやや深めに 5 裂し、中央の 3 本の先端が長く伸びるのが特徴です。

イタヤカエデ (板屋楓)

イタヤカエデは日本全国の山地に生えるカエデ科の落葉高木で、秋には黄色く黄葉します。世界中に種類も多く、日本にもオニイタヤ、エソイタヤ、エンコウカエデなど様々な種類があります。イタヤカエデとは板屋の意味で、葉がよく茂り、板でふいた屋根のように雨が漏らないことから名付けられたものです。

アサノハカエデ (麻の葉楓)

アサノハカエデは本州の福島県から四国にかけて分布するカエデ科の落葉小高木で、秋には黄色く黄葉します。葉は手のひら状に 5~7 裂し、葉脈が目立って凹むため、しわが寄ったように見えます。これが麻の葉に似ていることから名付けられました。

梶楓 カエデ科 Aceraceae

カジカエデ *ACER DIABOLICUM*

宮城県から西に生える落葉高木。雌雄別株。花は春。翼のある実は夏~秋。紅葉が美しい。別名オニモミジ。

カジカエデ (梶楓)

カジカエデは宮城県より西に生えるカエデ科の落葉高木で、秋には赤く紅葉します。葉は手のひら状に 5 裂し、厚くて大きいため、別名オニモミジともいわれます。葉の形はカナダ国旗のメープル(サトウカエデ)に似ています。雌雄別株で、4月から5月ごろ、紅紫色の花を咲かせ、夏から秋に翼のある果実をつけます。モミジ類の実(翼果)は、種類によって翼の開き具合が異なりますが、カジカエデの翼果は、開きの小さい代表です。